

国立大学法人鳥取大学中期目標

平成 28 年 3 月 1 日 文部科学大臣提示
平成 29 年 3 月 21 日 文部科学大臣提示
平成 30 年 3 月 26 日 文部科学大臣提示
平成 31 年 3 月 26 日 文部科学大臣提示
令和 3 年 3 月 9 日 文部科学大臣提示

(前文) 大学の基本的な目標

鳥取大学は、創立以来今日まで、地域の人々の幸福のために、実学を中心に地域の発展に取り組んできた。砂丘農業の取組から発展して世界に展開する乾燥地研究に象徴されるように、地域のための取組の成果を活かして世界に貢献してきた。その根底にあるものは、地域に寄り添いながら世界を視野に入れ、つねに厳しい条件下におかれている人々に対する思いやりの心をもつ姿勢である。

このような伝統を受け継いで、理論の修得と実践により問題解決と知的創造を行う「知と実践の融合」を基本の理念として、全学を上げた学際的取組により教育、研究、社会貢献を進め、活力をもった持続的な地域の創生につとめるとともに、環境科学、ライフサイエンス等の特色ある分野において研究拠点の形成を進め、持続的な世界の構築に貢献する大学を目指していく。そのために次の3つの目標を掲げる。

1. 社会の中核となり得る教養豊かな人材の育成
2. 地球規模及び社会的課題の解決に向けた先端的研究の推進
3. 国際・地域社会への貢献及び地域との融合

これらの目標の達成に向けて、基本理念である「知と実践の融合」のもとに、次のようなビジョンをもって活動を行う。

【教育】

時代に必要な現代的教養と人間力を根底におく教育により、地域社会の課題解決や国際社会の理解を志向し、社会の中核となり得る教養豊かな人材の育成に取り組む。

【研究】

地域から世界に広がる研究フィールドにおいて、基礎研究のみならず、社会的課題の解決へ向けた実践研究を行う。責任ある研究活動を行うとともに、そこから得た知見を学術知にとどめることなく、知的資源として社会へ還元する。

【社会貢献】

地域と一体となって教育研究を推進するとともに、広く社会に役立つ研究成果を創出し、地域のみならず国際社会に還元する。大学の資源を活用して地域の活性化、地域医療の充実に貢献する。

本学は、地域学部、医学部、工学部及び農学部等で構成されており、執行部と各学部との意思疎通や学部間の共通認識が図りやすく、状況に応じて迅速に対応できるという特色を活かし、学長のリーダーシップの下に、学内の資源を有効に活用し、効率的・機動的な大学運営を推進して目標の達成に努める。

◆ 中期目標の期間及び教育研究組織

1 中期目標の期間

平成28年4月1日から平成34年3月31日までの6年間

2 教育研究組織

この中期目標を達成するため、別表1に記載する学部・研究科等及び別表2に記載する共同利用・共同研究拠点を置く。

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

- 1) 「知と実践の融合」のもと、その時代に必要な現代的教養と人間力を根底におく教育により、地域社会の課題解決や国際社会の理解を志向し、社会の中核となり得る教養豊かな人材の育成に取り組む。
- 2) 医学、保健系、工学、農学及び学際分野のミッションの再定義で明示した養成人材像を踏まえ、学士課程のディプロマ・ポリシーに基づき、学生の課題発見、問題解決やコミュニケーションの能力を養成する。
- 3) 医学、保健系、工学、農学及び学際分野のミッションの再定義で明示した養成人材像を踏まえ、大学院課程のディプロマ・ポリシーに基づき、豊かな学識、高度な専門的能力を養成する。

(2) 教育の実施体制等に関する目標

- 4) 大学教育の質を維持・向上し、学位水準を保証するため、教育の内部質保証を推進する。
- 5) 学生にとって学びやすい環境を提供するため、学生の意見を取り入れて教育環境を充実する。

(3) 学生への支援に関する目標

- 6) 学生の入学前から卒業後までを通じた総合的な支援を実施する。

(4) 入学者選抜に関する目標

- 7) 「知」のみならず「実践」的マインドを有する入学者を受け入れ、本学の学修と経験を通じて、社会の中核となり得る教養豊かな人材を育成するため、受験生の能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価できる新たな入学者選抜に取り組む。

2 研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

- 8) 乾燥地科学、菌類きのこ資源科学、染色体工学等において、国際的存在感をもつ学際的研究拠点を形成する。
- 9) 大学の知的資源を活用し、創出された研究成果や活動成果等を広く地域社会へ還元する。
- 10) 乾燥地科学分野における共同利用・共同研究拠点の機能を強化し、共同研究の国際化に取り組む。

(2) 研究実施体制等に関する目標

- 11) 将来の研究コアとなる基盤的研究を学際的研究へスパイラルアップするとともに、次世代を担う若手研究者等を育成できる研究支援環境を構築する。

3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

- 12) 持続可能な地域の構築を目指し、地域社会の課題解決に向けて大学の資源を活用し、地域を志向した教育・研究を推進する。
- 13) 地域創生に向けた取組として、自治体・地域住民との連携・協働により、地域

に根ざした人材育成を推進する。

4 その他の目標

(1) グローバル化に関する目標

- 14) 持続社会創生に貢献できるグローバル人材育成の拠点として、世界と地域をつなぐハブ機能を強化し、大学教育のグローバル化を推進する。
- 15) 開発途上国、新興国等をフィールドにした実践教育を拡充し、高い実践力と逆境力、さらに国際通用性を身に付けたグローバル人材育成を推進する。

(2) 附属病院に関する目標

- 16) 附属病院の理念「地域と歩む高度医療の実践」と基本方針（医療、教育、研究、地域社会への貢献、国際化、病院経営）に基づき、医師、臨床研究者等の優れた医療人を育成するとともに、質の高い臨床研究を推進する。
- 17) 鳥取県における地域医療の中核的役割を担うため、質の高い医療を提供するとともに、医育機関及び特定機能病院としての機能を充実する。
- 18) 附属病院の第2期中期目標マスタープランに掲げた「働きやすさ・人づくり・経営トップクラスの大学病院」を継承し、患者中心の安全・安心で、効率的な病院運営を実践する。

(3) 附属学校に関する目標

- 19) 大学附属である附属学校部を活用し、鳥取県教育振興基本計画等を踏まえ、主体的かつ協働的な学びを実現するための実験的・先導的な教育研究に取り組む。

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 組織運営の改善に関する目標

- 20) 学長のリーダーシップの下で学内資源の再配分や教育研究環境の充実を行うことにより、大学の強みや特色を生かした教育、研究及び社会貢献の機能を強化する。
- 21) 教育研究を活性化させるため、国内外の優秀な人材を活用できる人事・給与制度を再構築する。

2 教育研究組織の見直しに関する目標

- 22) 医学、保健系、工学、農学及び学際分野のミッションの再定義を踏まえ、教育研究組織を再編成し、教育研究の水準を向上させる。

3 事務等の効率化・合理化に関する目標

- 23) 大学の教育、研究及び社会貢献の機能強化に向けた支援体制を充実する。

III 財務内容の改善に関する目標

1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標

- 24) 外部資金の獲得等により、第2期中期目標期間に比べて自己収入を増やす。

2 経費の抑制に関する目標

- 25) 全学的な人件費及び管理経費の抑制を計画的に実施する。

3 資産の運用管理の改善に関する目標

- 26) 保有資産を適切に管理するとともに、資産の効率的・効果的な運用を実施する。

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

1 評価の充実に関する目標

27) 大学の教育研究等活動に対する説明責任及び大学運営の改善に資するため、効果的な大学評価を実施する。

2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

28) 社会に開かれた大学として説明責任を果たすため、大学の諸活動に関する情報を積極的に発信する。

V その他業務運営に関する重要目標

1 施設設備の整備・活用等に関する目標

29) 教育研究活動の質の向上や老朽化対策の推進に資するため、中期プランに基づき、学長のリーダーシップの下、施設及び環境の整備を推進する。

2 安全管理に関する目標

30) 安全・安心なキャンパス環境の維持・向上のため、危機管理を徹底する。

31) 事故等の未然防止及び再発防止のため、安全管理を徹底する。

3 法令遵守等に関する目標

32) 関係法令等の遵守を徹底し、研究における不正行為・研究費の不正使用の防止、情報セキュリティ対策の強化等に取り組み、適正な大学運営を行う。

別表 1 (学部、研究科等)

学 部	地域学部 医 学 部 工 学 部 農 学 部
研 究 科	持続性社会創生科学研究科 医学系研究科 工学研究科 連合農学研究科 (鳥取大学、島根大学、山口大学で構成する連合大学院) 共同獣医学研究科 (H31 設置) 山口大学連合獣医学研究科の参加校 (H31 募集停止)

別表 2 (共同利用・共同研究拠点)

乾燥地研究センター
